

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	14	実施計画番号	10	
事務事業名	資源再生利用事業		事業開始年度	平成5年
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業		
背景や経緯等	有価物を集団回収し処理業者へ引き渡した登録団体に対し、奨励金を交付することでごみ減量化やリサイクルへの意識の向上を図り、ごみ処理に係る経費の軽減を図る。			
事務事業の目的	家庭から排出される紙類、金属類、空き瓶類及び繊維類などの有価物を集団回収する団体に奨励金を交付することによって、ごみの減量化とリサイクルの推進を図り、循環型社会の形成に努める。			
実施状況	資源集団回収登録団体への奨励金交付			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	6	6	6
	人件費(千円)	216	216	216
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)	1,923	1,834	2,283
うち一般財源	1,923	1,834	2,283
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	資源集団回収量(換算重量)				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	重量	kg	640,940	611,092	1,000,000	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
成果指標	成果指標名①	資源集団回収量(換算重量)				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	重量	kg	目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000
			実績値	640,940	611,092	
			達成度(%)	64%	61%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

昨年のシートでは、761,000と、成果指標欄の実績値と合致してませんでしたので、修正しました。

十和田市事務事業評価シート

整理No	14
計画No	10

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">資源集団回収実施団体が回収業者に引き渡した有価物の量(換算重量)に対して奨励金を交付しており妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	資源集団回収実施団体が回収業者に引き渡した有価物の量(換算重量)に対して奨励金を交付しており妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
資源集団回収実施団体が回収業者に引き渡した有価物の量(換算重量)に対して奨励金を交付しており妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ごみの減量及びリサイクル率の向上に大きな効果があるが、繊維類を対象品目に追加するなど、成果を向上させる取組も検討する余地がある。また、奨励金は回収量(重量換算)1kg当たり3円としているが、ごみの減量及びリサイクル率の向上を推進するために、奨励金の増額も検討したい。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	ごみの減量及びリサイクル率の向上に大きな効果があるが、繊維類を対象品目に追加するなど、成果を向上させる取組も検討する余地がある。また、奨励金は回収量(重量換算)1kg当たり3円としているが、ごみの減量及びリサイクル率の向上を推進するために、奨励金の増額も検討したい。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	ごみの減量及びリサイクル率の向上に大きな効果があるが、繊維類を対象品目に追加するなど、成果を向上させる取組も検討する余地がある。また、奨励金は回収量(重量換算)1kg当たり3円としているが、ごみの減量及びリサイクル率の向上を推進するために、奨励金の増額も検討したい。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業コストに無駄はない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	事業コストに無駄はない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	事業コストに無駄はない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">資源集団回収実施団体に対し、有価物の回収量によって交付額を決定しているため、受益者負担適正化の検討になじまない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	資源集団回収実施団体に対し、有価物の回収量によって交付額を決定しているため、受益者負担適正化の検討になじまない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
資源集団回収実施団体に対し、有価物の回収量によって交付額を決定しているため、受益者負担適正化の検討になじまない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由
ごみの減量化、リサイクルの推進は大きな課題であり、現状維持しながらも対象品目の追加や奨励金の増額検討で一層の効果を図りたい。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
より多くの団体参加を画策し、ごみ減量化及びリサイクルの推進の啓発に努めていく。